



株式会社洲本整備機製作所

代表取締役社長 番所 利行 氏

様々な業界のプロの現場・ニーズに合わせた「洗浄機」を作り出す  
パイオニア企業！

## PROFILE

1946年兵庫県洲本市出身。名古屋商科大学を卒業後、1955年株式会社洲本整備機製作所に入社。1976年に代表取締役社長に就任し、現在に至る。趣味はスポーツ全般で、高校時代はボート(レガッタ)でインターハイ・国体に出場した経歴もある。現在でも高校時代の友人とボートを楽しんでおり、年代別のマスターズレガッタにも出場している。



本体外観

—「ひょうごオンリーワン企業」に認定された感想をお聞かせください。

平成30年度に「ひょうごNo.1ものづくり大賞」の選考委員会特別賞に選んでいただき、また「ひょうごオンリーワンを目指す企業」にも申請していた経緯もあったので、今回の「ひょうごオンリーワン企業」認定は、個人的にも会社としても非常に喜ばしく思っています。

今回認定されたことを受けて、弊社としてもお取引先様等に対し、積極的にアピールしていき、今後の販路の拡大や、会社としての知名度・信頼度の向上に繋がることを期待しています。

—御社の事業について、教えてください。

高圧冷・温水洗浄機やスチームクリーナー、ガス式高圧温水洗浄機など、プロフェッショナルの方々が業務用として使用される洗浄機の製造・販売を行っています。

弊社の特徴としては、水圧だけでなく常温から最高150℃までの温度を加えることで、洗浄力の向上や、水だけでは落とすことの難しかった油脂の洗浄、殺菌効果などの用途に使われています。

最初の頃は自動車関係の洗浄をメインに行っていたのですが、ありがたいことに今では様々な分野での洗浄のご要望をいただいております。自動車の整備工場での洗浄機の分野では、4割程度のシェアを獲得しています。

## —環境面に配慮した、クリーンエネルギーによる洗浄機も開発されているとお聞きました。

最初のきっかけは、ガス会社からの「燃料をガスにできないのか？」という要望からでした。そこからガスを動力源とする洗浄機の開発に着手し、東京ガスから開発費用の援助の申し出もあり、ガス式高圧温水洗浄機の製品化を行ってきました。

また、深夜電力型高圧温水洗浄機についてですが、これは関西電力との共同開発により生まれた製品です。ただ、超大手企業と中小企業という企業規模も大きく違う状況下で、当初は関西電力側からなかなか認めてもらうことができませんでした。しかし、持っている技術をしっかりと伝えていくことで技術力が認められ、共同開発を行うことになりました。これらの製品開発を通じて、弊社としても環境面に配慮した製品づくりにこだわるようになりました。



電気加熱式高圧温水洗浄機



ガス燃焼式 高圧温水洗浄機

## —モノづくりにおいて大切にされている考えを教えてください。

創業の頃から、「整理・清潔・整頓」を理念としており、その理念に基づき提案・改良を常に心掛けて行動しています。そのような行動の中から、新しいアイデアを創造する力を養っていています。

新しいアイデアを創造するために、社員には広い視野を持って欲しいと思っています。そのため、工場の中でも1つの工程に特化させる単能工ではなく、複数の工程に対応する多能工を育成するよう配置転換や勉強会などを頻繁に行っています。

## —「2020年健康経営優良法人」に認定されたとお伺いしました。

弊社の想いとして、「人が健康でなければ良い仕事はできない」という考え方があり、社内でも従業員の健康管理にはかなり力を入れています。世間的に分煙が叫ばれるようになるかなり前から、弊社では禁煙・分煙の取り組みも行ってきました。この考え方が「整理・清潔・整頓」の企業理念にも繋がっています。

## —これまで様々な製品を作られている中で、最も苦勞したご経験をお聞かせください。

高圧洗浄用の回転ノズルの開発が一番印象に残っています。一般的なノズルの水の噴射方法として「水を直線的に出すと到達距離も長く洗浄力が高いが、洗浄できる範囲が限定的になってしまう」一方、「扇形に拡散させて水を出すと、洗浄できる範囲は広がるが、洗浄力は下がってしまう」という課題がありました。そこで何とか直線的な水の出し方で広範囲を洗浄することができないかと考え、開発を始めたのが回転式のノズルでした。

ただ、どうしても水圧が強いため、水漏れが頻繁に発生したり、ノズルが上手く回転しないなどの課題がありました。何度も何度も試行錯誤を繰り返し、ようやく回転も任意に調整できる回転ノズルを開発することに成功しました。

この回転ノズルは、自動車の底面を洗浄する製品に搭載されています。特に、長距離を走るトラックには冬場の道路に撒かれている融雪剤が底面に多く付着してしまうのですが、そのままにしておくとブレーキパイプや電気部品に融雪剤が付着し、腐食による油漏れや漏電を誘発してしまいます。そのため、頻繁に洗浄する必要があるのですが、この製品を使っていただくことで問題が解消し、大変ご好評をいただいています。



—お客様のニーズを掴むために、取り組まれていることを教えてください。

営業部内で毎日日報を共有できるようにしており、その日報を見てニーズを掴んだり、自社のホームページ作成においては、問合せがしやすいような見た目にこだわりました。ホームページからの問い合わせの件数も多く、そこからニーズや意見をいただくこともあります。

また、展示会にも毎年積極的に出展しており、年間20～30回程度の頻度で製造業を中心に、幅広い業界の展示会に参加しています。特に自動車業界の展示会は地方にて行われることも多く、そのような地方の展示会では実際のユーザーの生の意見・ニーズを聞ける機会も多いので、大規模な展示会だけではなく、そのような地方での展示会にも積極的に取り組んでいます。

—技術の向上や新たな観点を取り入れるために取り組まれていることはありますか？

他分野の企業のOBの方々を招いて、加工技術などを教えていただくという取り組みを行っています。この取り組みの中で新たな製品も生まれてきており、その一つに「ウェルミストII」という介護施設向けの大容量加湿器があります。弊社が持っている高圧洗浄の技術をベースに他分野の知見・ノウハウを掛け合わせて、今までの洗浄機とは少し違った分野にも展開していきたいと考えています。

—「オンリーワン企業」をめざす企業へのメッセージをお願いします。

弊社は規模は小さいながらも1つのメーカーとして、独自の技術で、独自の製品をつくり、独自で販売しています。そのような独自性の部分で、今回オンリーワン企業に選んでいただいたと思っています。

モノづくりを行っている企業の中には、大手企業の下請けをメインとしている企業なども多いかと思えます。そのような企業でも、例えば加工技術で独自性があるなど、少なくとも1つはオンリーワンな部分を持っているかと思えます。そのような独自性を伸ばしていくことで、モノづくりの観点において、我々も勉強になる部分が多くあると思っています。独自性を磨くことにより、オンリーワン企業に近づくことができ、企業・技術としての信頼度を高めることができると考えています。

## TECHNOLOGY

## 国産初のスチームクリーナー製造企業として、これまで培った 技術・ノウハウに基づく充実した製品ラインナップ

高圧温水洗浄機



自走式下部洗浄装置（埋設式）



ネオミスト



昭和27年に国産初のスチームクリーナーを開発以来、弊社は洗浄機を単なる洗浄の道具として考えるのではなく、地球環境改善のためのパートナーとして捉えています。性能や機能、耐久性のようなパフォーマンス面のみならず、クリーンエネルギーによる洗浄機の開発、生産から廃棄に至るまでの無公害化、再利用化を徹底して追求しています。

このようなパイオニア精神と技術の積み重ねにより、鳴門タイプでは灯油式でありながら限りなく0に近いクリーンな排ガス値を達成。更にNOxゼロ、クリーンで安全、静かな深夜電力型高圧温水洗浄機「YU-SEN」や、ガス式高圧温水洗浄機「ガス洗」、蒸気加熱式高圧温水洗浄機のような、環境面を考慮した様々な製品を産み出して参りました。

### 開発に至った経緯

洗浄機の製造を始める前は、自動車の下周りの洗浄を灯油とブラシを使って手作業で行っていました。その手間を何とかできないかと思ったことがきっかけとなり、油脂も落とせる温度をかけた洗浄機の製造を開始しました。

その後、モータリゼーションの流れで自動車の整備工場が増えたことで、需要が広がっていきました。また、自動車は様々な業種に出入りしていることから、様々な業種での洗浄のニーズを受けて、自動車関係だけではなく用途の洗浄機の製造も始まりました。

### 独自性

自社で開発している洗浄機用のボイラー・バーナーの開発技術が高く、要望される温度を均一に保ちつつ、水を噴射する技術が非常に高いとご評価をいただいています。

他の企業では、ボイラーやバーナーなどの部品をメーカーから仕入れて、組み立てるいわゆるセットメーカーが多いですが、弊社は自社で開発・製造を行っているため、様々な分野へのニーズにきめ細かに対応することができます。

### 今後の展望

これまで培った洗浄機の技術を活かして、更なる付加価値や利便性の向上を図っていきたくと考えています。付加価値の部分では、高圧ポンプにより加圧した除菌水を小口径ノズルから微細噴霧することができる除菌水噴霧装置（NEO MIST）を販売しており、昨今のコロナの影響もあり医療機関や老健施設、カラオケボックスなどへの提案を進めています。

利便性部分では、バッテリーを搭載した持ち運び可能な噴霧装置の開発を行っています。

## TOPICS

**WBS トレンドたまごにて「スカイミスト」が取り上げられました。**

5年前にテレビ東京系列、WBS(ワールドビジネスサテライト)内のトレンドたまごのコーナーにて弊社開発の"スカイミスト SMF-500"が、360° クールダウンミストとして紹介されました。天井吊り下げ式で広範囲にミストを拡散、夏場の熱中症対策や乾燥時の防疫目的、廃棄物処理場などでの沈塵対策にも活躍します。

**亜臨界水洗浄機(HOT JET)で、化学洗浄・溶剤処理をゼロにする。**

京都大学との共同開発により生まれた亜臨界水洗浄機(HOT JET)は、140°Cの高温熱水で洗浄することで、今まで洗剤や溶剤を使わなければ落とせなかったオイルやインク、カビなど様々な汚れを水だけで落とすことが可能です。



## 沿革

- |       |   |       |                                   |
|-------|---|-------|-----------------------------------|
| 1916年 | 番所商会として創業。  | 1985年 | 津名工場完成。ガス燃焼式高压温水洗浄機を開発。           |
| 1952年 | 洗浄機としてスチームクリーナー考案、製品として市販。<br>有限会社番所商会となる。            | 1987年 | 大型車・トラック向け自動下部洗浄用ガンを開発。           |
| 1954年 | パーツクリーナー、温水ボイラー、冷水洗浄機を開発市販。<br>有限会社番所商会から洲本整備機製作所に改名。 | 1996年 | 深夜電力型高压温水洗浄機を開発。                  |
| 1964年 | 西宮市に営業所を開設。   | 2003年 | 自動車等の下部洗浄用ガンを開発(文部科学大臣表彰受賞)。      |
| 1968年 | 新製品高压高温水ワッシャーを開発市販。                                   | 2004年 | 環境マネジメントシステムKEMS ステップ2 認証取得。      |
| 1970年 | 資本金500万円で株式会社洲本整備機製作所と独立改名する。                         | 2005年 | 津名工場を淡路工場に改名。                     |
| 1975年 | 工場新設(総面積3,766 m <sup>2</sup> )。東京都練馬区に営業所として進出する。     | 2008年 | 東京営業所、西東京市に移設。                    |
| 1979年 | 資本金1,000万円に増資する。                                      | 2011年 | 排気熱再利用新型ボイラーの考案(文部科学大臣賞受賞)。       |
| 1980年 | 資本金2,000万円に増資する。<br>通商産業大臣優良節水機器認定工場。                 | 2012年 | 札幌出張所を開設。                         |
|       |   | 2015年 | 淡路工場増設と共に本社工場を淡路工場に移転統合し、事業本部とする。 |

## 会社概要

所在地	〒656-2151 兵庫県淡路市 大町畑43	従業員数	50~150名未満
電話	0799-62-4778	資本金	2,000万円
FAX	0799-62-4389	設立	1970年5月6日
URL	<a href="https://www.sumoto-seibiki.co.jp/company">https://www.sumoto-seibiki.co.jp/company</a>	代表取締役社長	番所 利行

## 事業概要

高压冷水洗浄機 / 高压温水洗浄機 / スチームクリーナー / ガス式高压温水洗浄機 / 深夜電力型高压温水洗浄機 / 下部ロボット洗浄機 / 他各種高压洗浄に関わる機器の製造販売